

令和 3 年 6 月 17 日現在

機関番号：12611

研究種目：挑戦的研究(萌芽)

研究期間：2018～2020

課題番号：18K18501

研究課題名(和文)第二次世界大戦後オーストリアの「文化国家」形成における文学の機能についての研究

研究課題名(英文) A study of the function of literature in the formation of the Austrian "cultural state" after the Second World War

研究代表者

前田 佳一 (Maeda, Keiichi)

お茶の水女子大学・基幹研究院・准教授

研究者番号：70734911

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は1945年から1960年代までオーストリアが「文化国家」として復興していくに際して文学がいかなる役割を果たしたのかについて、A. 「『オーストリア』イデオロギーの残存」、B. 「『暗い時代』の文化状況の残存」、C. 「冷戦下の文化をめぐる闘争」、D. 「新世代と旧世代のせめぎ合い」、E. 「女性作家の台頭」という五つのサブテーマに沿った形で、主に首都ウィーンと、独自の文化的状況が存在した地方都市ザルツブルクの両都市を比較した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は文学を主たる対象としつつも、狭い意味での文学研究の手法にはとらわれず、文化政策研究、メディア論、記憶論、ジェンダー論等の多角的・総合的な視点からアプローチを行なった。またオーストリアが敗戦後の状況からいかにして文化的復興を成し遂げたのかというテーマは、同じく敗戦国であった日本の状況とも比較可能であり、本研究の成果は研究者間のみならず、広く日本社会一般にアピールされるべき応用可能性を有する。

研究成果の概要(英文)：This study examines the role of literature in the revival of Austria as a "cultural nation" from 1945 to the 1960s, with five sub-themes: A. "The Remaining 'Austrian' Ideology", B. "The Remaining Cultural Situation of the 'Dark Ages'", C. "The Struggle for Culture during the Cold War", D. "The Conflict between the New and the Old Generations", E. "The Rise of Women Writers". The main comparison is between Vienna, the capital city, and Salzburg, a regional city with its own unique cultural situation.

研究分野：ドイツ語圏文学

キーワード：オーストリア文学

1. 研究開始当初の背景

同じ敗戦国であったドイツとは異なり戦前の文化的状況が戦後においても多く残存したオーストリアの戦後復興から第二共和国成立、そして EU 加盟へと至る歴史についての批判的研究は歴史学、特に政治史において Rathkolb(2015)らによってようやく本格的に取り組みられることとなった比較的新しいテーマであった。本研究は文学を主たる対象としつつも、狭い意味での文学研究の手法にはとらわれず、文化政策研究、メディア論、記憶論、ジェンダー論等の多角的・総合的な視点からアプローチすることによって先のような近年の流れに一石を投じ、既存の研究分野の枠にはとられない形での研究体制を構築することを目指した。

2. 研究の目的

本研究は 1945 年から 1960 年代までのオーストリアが様々な歴史的・政治的文脈が複合的に絡み合う中で「文化国家」として復興していくに際し、文学が果たした多面的な機能のありようを音楽、演劇、学術、映画、ラジオ等の各文化領域の状況をふまえつつ批判的に検討することを第一の目的とした。そしてこれにより、文化・芸術と社会・政治との関わりや、国民の文化的アイデンティティ形成のありようという問題をめぐる一つの重要な事例を提示することを第二の目的とした。

3. 研究の方法

A. 「オーストリア」イデオロギーの継承、B. 「暗い時代」(アウストロ・ファシズム期、第三帝国期)の文化状況の残存、C. 冷戦下の文化をめぐる闘争、D. 新世代と旧世代のせめぎ合い、E. 女性作家の台頭、という五つのサブテーマに沿った形で、首都ウィーンと、ウィーンとは異なる独自の文化的状況が存在したザルツブルクの両都市を比較しつつ考察した。

4. 研究成果

期間中にプロジェクトメンバー(杉山、日名、前田)が公表した関連の研究成果は論文計 12 本、学会発表 9 回、書籍 2 冊である。

2018 年度では、前田はマックス・メルとイルゼ・アイヒンガーがそれぞれ雑誌『トゥルム』と『プラーン』において発表した詩作品と散文作品を比較した論文において(前田、2019)戦後の新世代と旧世代の作家の間に存在した「オーストリア文化」観の相克のありようを明らかにした。また、文学における固有名の機能についての論文集(前田編、2019)においてインゲボルク・バッハマンとハイミート・フォン・ドールナーの長編作品におけるウィーン描写の比較と、そこに表象されているナチズムや東西冷戦の記憶についての分析を行った。また、2019 年 3 月に東京大学にて行われた国際コロキウム「作者性と作者コンセプト」において 1940 年代のインゲボルク・バッハマンとウィーン文壇の関係について扱うドイツ語発表を行った。杉山は郷土文学作家カ

ール・ハイブリヒ・ヴァッガールについて扱った論文(杉山、2018)において「故郷」理念の戦中から戦後への変容のありようを明らかにした。日名はイルゼ・アイヒンガーの散文詩を扱った論文(日名、2019)におけるウィーン表象のありようを分析した。

2019 年度には前田は日本独文学会春季研究発表会にてシンポジウム「フラグメントの諸相—文化的実践としての」を企画し、その枠内でゲアハルト・フリッチュの詩学に関する口頭発表を行った。また、日本独文学会秋季研究発表会にてシンポジウム「『天国への階段』—オーストリア文学における故郷表象の虚構性」を企画し(研究分担者の杉山、日名も登壇)、その枠内にてインゲボルク・バッハマンにおける故郷表象についての口頭発表を行った。また、ウィーンに2度調査目的の出張に行った折、ウィーン大学独文科教授のヴィンフリート・クリークレーダー、ギュンター・シュトッカー両氏とディスカッションを行う等、連携を深めることができた。3月には両氏を日本に招いての国際コロキウムならびに講演会を予定していたが、昨今のコロナウイルスをめぐる現況に鑑み、残念ながら中止となった。杉山は上記のシンポジウムの枠内でシュテファン・ツヴァイク作品における故郷表象と後代における受容をめぐる問題について口頭発表を行った。また、「きよしこの夜」の戦後オーストリアにおける受容について扱った単著論文を発表した。日名は上記シンポジウムにてトラークルにおける故郷表象と戦後における受容をめぐる問題について口頭発表を行った。また、トラークル受容において重要な役割を有していたE・ブッシュベックについての単著論文を発表した。

2020 年度には前田はインゲボルク・バッハマンと1940-50年代のウィーン文壇との関連についてまとめた論文、バッハマン文学における「故郷」像を扱った論文、ゲアハルト・フリッチュにおける断片性の詩学についてまとめた論文を発表し、戦後オーストリアにおけるオーストリア・イデオロギーをめぐる言説について扱った口頭発表を行った。杉山はシュテファン・ツヴァイクにおける「故郷」像を扱った論文を発表した上で、ツヴァイクの戦後における受容について扱った口頭発表を行った。日名はトラークルの詩とその戦後の受容について扱った論文を発表し、ヴァインヘーバーの詩作における「オーストリア的なもの」のモチーフについて扱った口頭発表、イルゼ・アイヒンガーの詩作における「鏝」の主題について扱った口頭発表を行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 前田佳一	4. 巻 36
2. 論文標題 Autorschaft einer jungen Dichterin - Ingeborg Bachmann und die Literaturszene im Wien der Nachkriegszeit	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 オーストリア文学	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 前田佳一	4. 巻 141
2. 論文標題 インゲボルク・バハマンのオーストリア表象－『湖への三つの道』を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本独文学会研究叢書	6. 最初と最後の頁 60-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 前田佳一	4. 巻 141
2. 論文標題 オーストリア文学の故郷表象をめぐる序論	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本独文学会研究叢書	6. 最初と最後の頁 2-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 前田佳一	4. 巻 88
2. 論文標題 損傷した物語 - ゲアハルト・フリッチュ『ファッシング』における断片性の詩学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 詩・言語	6. 最初と最後の頁 87-99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉山有紀子	4. 巻 141
2. 論文標題 ...dieses kleine Land, zufaellig mein Heimatland“ シュテファン・ツヴァイク『昨日の世界』における「故郷」としての オーストリア	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本独文学会研究叢書	6. 最初と最後の頁 47-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日名淳裕	4. 巻 141
2. 論文標題 ゲオルク・トラークル「最後の詩」における祖国の死と故郷 の再生	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本独文学会研究叢書	6. 最初と最後の頁 6-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉山有紀子	4. 巻 59
2. 論文標題 "Stille Nacht! Heilige Nacht!" と戦後オーストリア：初演200周年に見る「平和の歌」としての受容をめぐる諸問題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 慶應義塾大学日吉紀要. ドイツ語学・文学	6. 最初と最後の頁 57-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 日名淳裕	4. 巻 29
2. 論文標題 空想された故郷への埋葬 エアハルト・ブッシュベック『ゲオルク・トラークル、鎮魂歌』について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教養論集	6. 最初と最後の頁 93-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 杉山有紀子	4. 巻 34
2. 論文標題 Vom Pfingstidyll zur Pfingstreise. Die Veraenderung der Idee der "Heimat" waehrend des und nach dem Zweiten Weltkrieg(s) am Beispiel von Karl Heinrich Waggerl	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 オーストリア文学	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 前田佳一	4. 巻 15
2. 論文標題 オーストリア文学の過去と未来の間ーマックス・メルとイルゼ・アイヒンガーを例に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 お茶の水女子大学人文科学研究	6. 最初と最後の頁 173-185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 前田佳一	4. 巻 126
2. 論文標題 ウィーンの(脱)魔術化 - ハイミート・フォン・ドーデラーとインゲボルク・パッハマン	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本独文学会研究叢書	6. 最初と最後の頁 72-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 前田佳一	4. 巻 126
2. 論文標題 固有名と虚構性をめぐる諸問題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本独文学会研究叢書	6. 最初と最後の頁 2-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 前田佳一
2. 発表標題 1945年以後のオーストリア文学における「オーストリア的なるもの」の象徴化と神話化
3. 学会等名 戦後オーストリア文学研究会コロキウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 杉山有紀子
2. 発表標題 1945～50年のオーストリア文学におけるシュテファン・ツヴァイク受容 -Persona non grataから「昨日の世界の作家」へ-
3. 学会等名 戦後オーストリア文学研究会コロキウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 日名淳裕
2. 発表標題 ヨーゼフ・ヴァインヘーバー『ここに言葉がある』における「オーストリア的なるもの」
3. 学会等名 戦後オーストリア文学研究会コロキウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 日名淳裕
2. 発表標題 イルゼ・アイヒンガー『贈られた助言』における「錆」の主題
3. 学会等名 日本独文学会関東支部研究発表会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 前田佳一
2. 発表標題 損傷した物語ーゲアハルト・フリッチュ『ファッシング』における断片性の詩学
3. 学会等名 日本独文学会春季研究発表会シンポジウム「フラグメントの諸相ー文化的実践としての」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 前田佳一
2. 発表標題 「ウィーンは燃えている」ーインゲボルク・バッハマンのオーストリア表象と脱魔術化
3. 学会等名 日本独文学会春季研究発表会シンポジウム「『天国への階段』ーオーストリア文学における故郷表象の虚構性」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 杉山有紀子
2. 発表標題 "...dieses kleine Land, zufaellig mein Heimatland" シュテファン・ツヴァイク『昨日の世界』における「故郷」オーストリアの救済
3. 学会等名 日本独文学会春季研究発表会シンポジウム「『天国への階段』ーオーストリア文学における故郷表象の虚構性」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 日名淳裕
2. 発表標題 ゲオルク・トラークル「最後の詩」における祖国の死と故郷の再生
3. 学会等名 日本独文学会春季研究発表会シンポジウム「『天国への階段』ーオーストリア文学における故郷表象の虚構性」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 前田佳一
2. 発表標題 Autorschaft einer jungen Dichterin. Ingeborg Bachmann und die Literaturszene im Wien der Nachkriegszeit.
3. 学会等名 国際コロキウム「作者性と作者コンセプト」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 日名淳裕他(成城大学法学会編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 信山社	5. 総ページ数 498
3. 書名 変動する社会と法・政治・文化	

1. 著者名 前田佳一編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 316
3. 書名 固有名の詩学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	日名 淳裕 (Hina Atsuhiro) (40757283)	成城大学・法学部・准教授 (32630)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	杉山 有紀子 (Sugiyama Yukiko) (70795450)	慶應義塾大学・理工学部（日吉）・講師 (32612)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関